

# 難民化防止作戦軌道に

「ナイロビ30日中村啓三」生活の困窮から国外に流出する恐れのある住民に食糧を届け、水源の確保、医療、学校の改修など最低限の援助をして、難民化を防ごうという国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の新しい試み、クロスボーダー（越境）作戦がケニア国境で始まって五カ月になる。作戦はようやく軌道に乗り、三月からソマリア南部全域に拡大する。だが、一帯は無政府状態、ちょっとした誤解が流血の事態を引きかねない。緊張の中で繰り返される作戦に日本人記者として初めて同行し、UNHCR傘下の非政府組織（NGO）の活躍ぶりを追った。

## ソマリア・ケニア国境ルポ

# 食糧、医療、学校……

## 「自立」助け、1万5千人帰還

ケニア北東部州の国境の村改善活動に二年間参加しただけではない。善意を具体化するのに必要な知識・技術を身につけている。さらには大学院で援助・開発フルヘテュの町に入る。

は午前八時半。この日の作業者は、国境に一番近いフルヘテュでの巡回診療と井戸の改修、診療所の再建、さ



ロスボーダー作戦は午前中だけだが、食糧配布だけは夕方までかかるという。ケナイさんらは自警団の車で奥地へ向かった。

無駄になる  
援助物資も

ソマリアのモハメド議長は治安に心配がないことを盛んに強調し「日本にみな好印象を持っている。日本の援助に期待している」と話す。彼らはナイロビ、エルワク、モガディシオに事務所を設けているが、その経費はIRSの援助だという。

土壁のあじむに銃弾の跡が残り、学校、診療所は破壊されている。診療所の再建は二十日から始まったばかり。資材と資金はUNHCRが負担し、IRSスタッフが指揮の下、約五十人がレンガを積み、井戸を掘らされた。なかなか

理解してくれない。悲しい光景だと肩を落とす。UNHCRは、ソマリアの首都モガディシオからの救援を始めたが、南部までは地雷原があつて車両が入れないため、ケニア国境から約百五十キロの範囲内のクロスボーダーで救援活動を行う方針。

ケニア国境ではマンデラ、エルワク、ルポイの三方所でクロスボーダー作戦に入り、この一月でソマリアに帰っても援助が受けられる」と約一万五千人の難民が帰還した。

刃先・構造・2枚刃カミソリ

貝印デスポレザー